

第3章（基準09）

（教育研究環境）

9-1 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

《9-1の視点》

9-1-① 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

9-1-② 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。

（1）9-1の事実の説明（現状）

【校地】

- ・ 経営情報学部、経営情報学研究科の校地面積は30,538㎡であり、そのうち屋外運動場敷地は、8,631㎡である。
- ・ グローバルスタディーズ学部の校地面積は14,376㎡である。

【校舎】

- ・ 経営情報学部、経営情報学研究科の校舎総面積は17,053㎡である。校舎の整備状況は、660人収容の大教室棟と20～250人収容の講義室、演習室、図書館、教員研究室、スポーツアリーナ、学食、コンビニ及びサークル棟で構成されている。なおこれまで、品川インターシティ27階に開設していたサテライトを、平成23（2011）年2月に品川インターシティフロント5階（340.04㎡）へ移転し、利便性を高めるとともに、効率的な施設運用を可能に行っている。
- ・ グローバルスタディーズ学部の校舎面積は7,219㎡である。校舎の整備状況は、300人収容の大教室1室と10～200人収容の教育棟と教員研究室棟から構成されている。平成22（2010）年4月に食堂の増設及び改修を行い、学生サービスの向上を図った。

【運動場・体育施設】

- ・ 経営情報学部の屋外運動場は、「スポーツ」の講義や課外サークル活動などに利用している芝生のグラウンドとテニスコート2面を整備している。また、体育施設は球技に適している1,294㎡の屋内スポーツアリーナが整備され、「スポーツ」の講義や課外サークル活動の他、学生に開放して自由にスポーツを楽しめるスペースとしている。さらに、780席の観客席も配置しており、学園祭等多目的イベントホールとしても利用している。スポーツアリーナは平成23（2011）年3月に屋内天井の大修理を行っている。
- ・ グローバルスタディーズ学部は885㎡の体育館とテニスコート2面を整備している。「スポーツ」の講義はないが、体育館ではバドミントン、バスケットボールなどができ

るよう整備され、学生がスポーツを楽しめるスペースを確保している。

【教員研究室】

- ・ 経営情報学部、経営情報学研究科の教員研究室は、個室とブース形式の研究室で構成されており、教員同士の交流が図れるよう配慮されている。経営系や情報系など専門分野の異なる教員も積極的に交流しており、授業の改善や研究の推進等に役立っている。教員全員が利用できるパソコンやプリンタなどの情報機器が設置されている「FDコーナー」や教員と学生のコミュニケーションが図れるラウンジも併設している。このように教員研究室は、教員や学生の利便性を考慮して設計されている。
- ・ グローバルスタディーズ学部の教育研究室は、専任教員には個室、AEP (Academic English Program) の非常勤講師には2～3人で1室、AEP以外の非常勤講師室の3形態で研究室を構成している。非常勤講師室には講師が利用できるパソコン・プリンタも設置している。また、教員同士、教員・学生間が交流・教育目標を達成できるように「Faculty Corner」及び学生ラウンジを設置している。

【メディア&インフォメーション・センター (MIC)】

MICは図書館(ライブラリー・サービス・セクション)及び情報センター機能を有するメディア・サービス・セクションの2つのセクション構成となっている。両セクションともMICの一元管理下のもとで運営し、緊密に連携することにより、ICT基盤整備と情報サービスを協働構築するといったシナジー効果による利用者サービスの向上を実現している。

【図書館】

経営情報学部、経営情報学研究科の図書館は竣工当時より、大学棟の中心部の3、4階に位置し、専有延床面積1,021㎡の構造となっている。3階にメインカウンターとレファレンスカウンターを配し、閲覧席(20席)の他、視聴覚資料閲覧席(18席)、ブラウジングコーナー(18席)、レファレンス・コーナー(8席)、パソコン利用席(12席)、リフレッシュラウンジ(10席)また、セミナールームとして(15席)を備えている。3階のフロアは、利用者との直接サービスを行う機能を集中させ、図書館の利用案内やレポート作成等における資料探索の支援を行っている。4階のフロアは、書架と閲覧席(66席)を備えておりまた、集中して自習・研究ができるよう個人席(30席)を多く配置している。収容可能冊数約55,000冊となっている。職員は専任司書2名、事務1名とパートタイム3名の計4.5人で運営に当たり、蔵書数は約138,105冊(和書126,045冊、洋書12,060冊)である。雑誌受入数は和雑誌199種類、洋雑誌60種類(2010年度実績)に加え、電子ジャーナルは12,090種類を超える。2010年度の年間入館者数は42,720人(前年度比101.6%)、年間貸出冊数は6,664冊(前年度比93.4%)であった。

また、本学に所属する教員や研究者の学術研究成果及び教育成果を収集・蓄積・保存し、広く公開することを目的として、学術情報リポジトリ「Tama蔵」の構築作業を

行っている。

グローバルスタディーズ学部図書館は、大学東棟1階に位置し、専有延床面積406㎡の構造となっている。閲覧座席64席、視聴覚資料閲覧席2席を備え、書架収容力は棚板延長1,080m(含、書庫)、収容可能冊数約30,000冊となっている。職員は専任司書2名、パートタイム1名の計2.5人で運営に当たり、蔵書数は約26,600冊(内、洋書3割強)である。雑誌受入数は和雑誌27種類、洋雑誌25種類(2010年度実績)に加え、アグリゲーターのサービスを経由してアクセスが可能な電子ジャーナルは12,100種類を超える。2010年度の年間入館者数は12,141人、年間貸出冊数は5,405冊で、それぞれ前年度比20%増、27%増と利用率が大幅に好転した。

[情報サービス施設]

本学では、学内全域に無線LAN基地(経営情報学部、経営情報学研究科75台、グローバルスタディーズ学部29台)を設置し、教員と学生が常時学内ネットワークを通じて学習できる環境を整備している。

経営情報学部、経営情報学研究科では、高度な支援を行うため241教室にデスクトップパソコン(21台)、242教室にはWindowsとLinuxを1台で利用できるシンクライアントのノートパソコン(61台)を設置している。

また、グローバルスタディーズ学部でも、W201教室、W202教室共に、Windowsが利用可能なシンクライアントのデスクトップパソコン(計84台)を設置している。

経営情報学部、経営情報学研究科の主要11教室とグローバルスタディーズ学部のE201教室、E301教室に、共通操作のマルチメディア操作卓(CD/DVD/VHS/書画カメラ/情報コンセント/映像音声出力口)を設置し、プレゼンテーション等を簡単に行えるよう整備している。また、マルチメディア教育を実現するために、グローバルスタディーズ学部E棟小教室(8教室)全てに、タッチパネル式のプラズマモニターとノートパソコンを1台設置している。

- ・両学部、研究科のネットワークの整備状況は、学内(基幹網:1Gbps/sec、支網:100Mbps/sec)及び学外(100Mbps/sec)に高速インターネット回線を整備し、学習者に快適なレスポンスを実現し得る教育研究環境を提供している。
- ・両学部では学生にノートパソコンを貸与・配付しており、学習課題作成、履修登録時に活用している。

教務学生管理システムを平成24(2012)年度から更新するにあたり、既存の教務学生管理は継続しつつ、ポートフォリオ機能等学生サービス向上に重きをおいた学生サービス支援システム導入に向け、プロジェクトを立ち上げ、選定を行っている。

経営情報学部では、中長期計画に基づいて、計画的にICT関連機器・設備の見直しを実施した。

学内設置(パソコン教室、ゼミ室、図書館)パソコンについては、恒常的に情報処理教育を行うため85台の入替えを実施した。

サーバについてはDNSサーバ並びにWebサーバを仮想化により1台の物理サーバに入替え、電力使用量の削減、サーバ管理の簡素化並びに学生サービスの信頼性、処理速度の向上を確保した。ネットワーク機器については、学内に配備していたルータ及び基幹となるスイッチングHUB（10台）を冗長構成のもとに入替えを行い、信頼性、安定性の確保、将来的に予想される通信帯域拡大に対応したネットワークを再構築し安定したサービスを提供した。

学生サービス支援システムについて、プロジェクトでデモンストレーション、機能評価を重ね、学生、教員、職員、キャンパス間の連携によるサービス向上に重きを置き、システム選定を実施した。

【校舎・運動場等施設設備の維持運営】

校舎・運動場等の施設設備の維持、管理は総務部が行っている。日常の施設設備管理等は専門業者へ委託しており、空調設備管理、電気設備管理、給排水設備管理、消防設備管理、エレベータや火災報知機等の点検及び構内清掃管理は、学内に常駐体制をとって行っており、常時総務部と連携して維持、管理を行っている

2011年3月にスポーツアリーナの天井の日窓から水漏れが見られたため、日窓の前面改修を行い、安全確保に努めた。

学内緑地管理も専門業者へ委託しており、総務部と連携して維持、管理を行っている。

（2）9-1の自己評価

【校地・校舎】

校地・校舎ともに大学設置基準を満たしており、教育研究活動の目的を達成するために整備されており、維持、管理も適切に行われている。

【運動場・体育施設】

グラウンド、テニスコート及び屋内スポーツアリーナ、体育館は、適切に整備されており、「スポーツ」の授業や課外サークル活動などに大いに利用されている。

【図書館】

経営情報学部図書館の教育・学習・研究支援の推進策として、上半期に講義内ガイダンスを多数実施したが、下半期は講義でのニーズがなく、内容や広報手段を再検討する必要がある。また、図書の貸出数が減少しており、授業との連携を密にすることが必要である。学習環境整備としては、館内案内図やサインの見直しと、館内の定期見回りによる現状把握により、資料へのアクセス改善を行い、効果が現れている。また、セミナールームの広報を強化したが、209回（前年度比105.5%）という微増の結果となり、更なる利用促進策を講じる必要がある。web広報については、全面的なリニューアルによるイメージ刷新と、コンテンツの充実を図るため、再構築作業を行い、平成23（2011）年度の公開に向けて準備が完了した。

グローバルスタディーズ学部図書館では4年間の蔵書構築の過程を経て、カリキュラムに直結する分野の基本的資料の収集は完了した。ただし学部開設3年目に行われたカリキュ

ラムの変更で英語資料の位置づけが低下したことにより、当初ゴールとしていた洋書4割、和書6割の構成比率は実現しなかった。図書館を頻繁に利用する学生は、比較的保守的な図書館環境を好む傾向が見られ、「静かで集中して勉強できるスペース」を求める声が多い点から考えると、現在の開放性を重視した建築デザインがデメリットとして働いてしまっていることが残念である。

【情報サービス施設】

情報サービス施設は適切に整備され学生、教員の教育研究活動環境の改善に充分機能し、有効に活用されている。

両学部で学生全員にノートパソコンを貸与・配付したことで、情報リテラシー教育、学習課題作成に有効活用されている。

学内パソコンの入替により、昨年度に比べ教育研究活動での利用環境が格段に改善され教育研究の向上につながっていると評価している。

サーバ、ネットワーク機器の入替に伴い、信頼性の高い安定したサービスを提供できているため、利用者の満足度も高い。

（3）9-1の改善・向上方策（将来計画）

【校舎・運動場等施設設備】

経営情報学部では、開学後20年以上が経過し、修繕工事が必要になってきており、施設整備長期計画を策定し教育研究環境の充実向上を図る。

グローバルスタディーズ学部では短大時代からの設備が20年を経過しているため、施設整備長期計画を策定し教育研究環境の充実向上を図る。

【図書館】

学術情報リポジトリ「Tama蔵」により、本学に所属する教員や研究者の学術研究成果及び教育成果を、平成23（2011）年度より公開し、運営を行う。

経営情報学部では、授業内で図書館ガイダンスを行っているが、教員の要望を取り入れたガイダンスを実施予定である。

また、FD委員会に対して授業との連携を深めた提案を行い、図書館利用と図書の貸出率を向上させる。

学習環境改善としては、利用者満足度の高い「セミナールーム」の利用を促進するため、「ゼミ」への直接的な周知等、広報活動を強化する。web広報については、常に最新情報を毎月2回更新する。

グローバルスタディーズ学部では、現在のペースで蔵書収集を進めると数年先には開架書架の収容力の限界に達してしまうことがほぼ確定的であるため、学術雑誌同様、今後は図書についても電子リソースの比重を増やしていく必要がある。インターネットが学習・研究活動の主要手段として定着した現在、図書館にいなくても図書館資料にアクセスして利用できるという環境は、図書館のあるべき方向性であり、その実現をグローバルスタディーズ学部図書館におけるゴールの一つとする。

【情報サービス施設】

経営情報学部、経営情報学研究科では、学内・学外の利用率が高い、大教室001（講堂）のネットワーク環境の安定化を図る為、当該教室インフラの見直しを行う。

学生向け印刷環境の改善を目的とし、多摩キャンパス学生プリンターシステムのリプレイスを行う。学内ネットワークのセキュリティ対策として、利用する際の認証方法を見直し、「多摩大学共通アカウント・パスワード」を利用したシステム設計を行う。

サーバ等の信頼性向上を目的としてバックアップシステムの設計を行う。学生全員に貸与・配付しているパソコンを使用した、情報リテラシー関連のベンダー資格の取得を推進する環境を整える。平成22（2010）年度にプロジェクトで選定検討した学生サービス支援システムの発注を行い、プロジェクトを通して1年間でシステムを充分使いこなせる体制を構築する。

9-2 施設設備の安全性が確保されていること。

《9-2の視点》

9-2-① 施設設備の安全性（耐震性、バリアフリー等）が確保されているか。

（1）9-2の事実の説明（現状）

本学の校舎は全て新耐震基準を満たしている。日常の施設設備管理等は、業務を委託して学内に常駐している専門業者が空調設備、電気設備、消防設備等の状況を集中管理しており、異常が発生した時も迅速に対応できる体制を取っている。また、身障者トイレや身障者対応エレベータを設置している。さらに、スロープを設置し車椅子での学内移動に不自由なきよう配慮しつつ身障者の安全性を確保している。

また、平成23（2011）年3月にスポーツアリーナの天井の日窓から水漏れが見られたため、日窓の全面改修を行い、安全確保に努めた。

（2）9-2の自己評価

校舎は新耐震基準を満たしており、日常の施設設備管理等を学内に常駐している専門業者が集中管理しており、安全管理には十分配慮し、異常が発生した時も迅速に対応できる体制を取っていて、適切な施設設備の安全性が確保されている。また、身障者にも配慮された施設設備に整備されている。

（3）9-2の改善・向上方策（将来計画）

現状では施設設備の安全性は確保されているが、今後も引き続き、適切な管理体制の維持に努める。このため、施設整備長期計画を策定する。教育研究環境の向上や身障者の配慮などのために逐次整備しているが、今後も安全性の確保やニーズにこたえて整備計画を実行し、教育研究環境の充実向上を図る。

9-3 アメニティに配慮した教育環境が整備されていること。

《9-3の視点》

9-3-① 教育研究目的を達成するための、アメニティに配慮した教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

(1) 9-3の事実の説明(現状)

経営情報学部、経営情報学研究科では、平成22(2010)年8月に国際交流ルームを開設し、留学生と学生がラウンジにて異文化の交流ができるようになった。さらに周辺環境(コンビニ前)も同時にテーブルと椅子を増設するなどして整備し、学生満足度の向上を図った。

経営情報学部では、校舎2階にコンビニを開設して、お昼時には学食を補完し、教科書販売や文房具類販売などキャンパスアメニティを向上させている。また、サークル活動の便宜を図るために空調完備のサークル室8室のサークル棟を整備している。

経営情報学部では、テラス、アリーナ周辺のホール等にテーブルと椅子を150席設置し、食事や休憩の場所として整備している。また、女子学生のニーズにこたえて、トイレを改修してパウダールームを設置している。グローバルスタディーズ学部の食堂増設時にトイレも男女共に増設した。

グローバルスタディーズ学部では食堂の増改築及び男女トイレの増設を平成22(2010)年4月に行い、学生サービスの向上を図った。

(2) 9-3の自己評価

学生食堂のリニューアルやサークル棟の設置及びコンビニの整備など教育研究活動を充実させるための整備については、学生の意見なども取り入れて学生生活の向上を図っている。

(3) 9-3の改善・向上方策(将来計画)

学生へのアンケート結果や意見も考慮し、学内の分煙を推進する。また、学生バスの増便を行う。今後もアメニティ設備の向上に努める。

【基準9の自己評価】

校地・校舎ともに大学設置基準を満たしており、維持、管理も適切に行われており、健全な教育研究環境になっている。

教育研究目的を達成するためのキャンパス整備を年々行って改善されているが、常に快適な教育研究環境を確保するために、教育研究計画や多様なニーズにもこたえながら、施設設備の整備に努める。また、年々老朽化してくる施設設備の維持、管理を適切に行うとともに、空調設備、電気設備及び消防設備などのリニューアル整備を計画的に行う。図書館並びに情報サービス施設は、本学の建学理念に沿った最新の設備が整備され、ユビキタスネットワークによる情報提供など、小規模大学として誇るべき内容となっており、教育研究に有効活用されている。

【基準9の改善・向上方策（将来計画）】

経営情報学部では、開学後約20年が経過し、補修工事が必要になってきており、今後も計画的に整備計画を進めて教育研究環境の充実向上を図る。

グローバルスタディーズ学部では短大時代からの設備が同じく約20年を経過しているため、計画的な設備の補修工事を行い教育研究環境の向上を図る。

これらについては、多摩大学長期施設設備計画を策定する。

現状では施設設備の安全性は確保されているが、大規模な災害に備えるなども含め引き続き、適切な管理体制の維持に努める。

図書館並びに情報サービス施設は、MICの一元管理の下、相乗効果を発揮するための運営体制構築を推進する。また、情報を扱う機関として、常に最新の情報技術を取り入れ、継続的な教育研究環境の向上を行う。